

成田空港の更なる機能強化——新しい成田空港構想 旅客施設の再構築や貨物機能の高度化、アクセスの改善など



熊谷知事に向け、一般質問の総括をする「ほんま県議」

本県の将来を見据えた構想策定を要望！

12月定例県議会本会議場において、成田空港について質問をしました。

【ほんま進】
成田空港はまさに本県の宝であり、新型コロナウイルス感染症の影響後の本県経済の成長を図るためには、成田空港の更なる機能強化による、訪日外国人旅行者の拡大や国際競争力の強化が不可欠であると考えます。そのため、国や成田国際空港株式会社においては、引き続き、周辺住民の生活環境保全に取り組みながら、更なる機能強化の着実な推進にしっかりと取り組んでいく必要があると考えます。成田空港の更なる機能強化の進捗状況はどうか。

《総合企画部長より》
成田空港の更なる機能強化は、約1,000ヘクタールの敷地拡張を伴う第2

の開港ともいえる国家プロジェクトであり、空港会社は、現在、その用地取得に向けて必要となる測量や物件調査について、概ね作業を終えたところであります。また、滑走路整備として、C滑走路の新設のみならず、B滑走路の延伸も計画されており、そのための東関東自動車道のトンネル化が必要になることから、去る10月には、準備工事である迂回路の工事に着手されたところです。

このように、更なる機能強化については、令和10年度末に予定されている滑走路の供用開始に向けて、空港会社により、着実に整備が進められているものと認識しています。

【ほんま進】
旅客ターミナルや貨物施設、アクセス等の空港機能



全体の能力向上を目的とした『新しい成田空港』構想のコンセプトが、空港会社から9月に公表、その検討会が10月からこれまで2回開催され、航空分野や交通分野などの有識者に加え、行政からは、国や空港周辺の関係市町、そして県も委員として参加している。空港会社が策定する新しい成田空港構想の検討において、県はどのような点を重視して取り組んでいるのか。

《熊谷知事より》
成田空港の更なる機能強化が進められている中、空港会社が策定する新しい空

港構想は、旅客施設の再構築や貨物機能の高度化、アクセスの改善等を図るべく、空港周辺のまちづくりが大きく関わるものです。また、空港の機能強化は、経済安全保障を含め、我が国の競争力強化に直結するものであり、構想の策定に当たっては、地域と空港が一体的に発展することが、国際競争力の強化に繋がるという認識を、国や関係者が共有して取り組むことが重要と考えています。

県としては、こうした点を重視し、構想の内容が、空港と地域の発展の好循環を生み出すものとなるよう、引き続き、検討会の場などを通じて、しっかりと取り組んでまいります。

【ほんま進《要望》】
成田空港の更なる機能強化とこれを見据えた新しい成田空港構想は、我が国の国際競争力強化に直結するまさに国家プロジェクトであるとともに、本県経済発展の原動力であることから、その効果は空港周辺地域のみならず、県全体の発展に大きく寄与するものと考えます。

成田国際空港株式会社より、本年9月14日開催の四者意見交換会にてご説明があった当時の資料の一部を抜粋、掲載しています。

↑ 県としても、本県の将来を見据え、長期的視点に立った構想策定の検討にしっかりと取り組んでいただくことを要望します。

羽田空港の航空機騒音の軽減 都心上空ルートの運用を よりしっかりとさせ、 更なる騒音軽減の早期実現を要望！！

12月定例県議会本会議場において、羽田空港について質問をしました。

【ほんま進】
本県は、上空に羽田空港の飛行ルートが集中していることから、千葉市をはじめとして、同空港を離着陸する航空機の騒音の影響を大きく受けてきました。そのため、騒音軽減を求める住民の声が強いことから、これまで国に対応を求めてきており、南風好天ルートの飛行高度の一部引き上げなど、一定の対策が講じられました。

また、国は、成田空港の更なる機能強化を進めている一方で、羽田空港の機能強化も実施しており、令和2年3月から、年間発着枠を3.9万回増加させたところ。国は、この羽田の機能強化を実現するための方策の一つとして、南風の新しい到着経路、いわゆる「都心上空ルート」を導入しており、この都心上空ルートが同時に本県の騒音軽減につながるものとして、羽田空港の飛行ルート下の地域では、この都心上空ルートの運用開始の効果や新型コロナウイルス感染症に伴う減便の影響などによって、航空機騒音が比較的小さい状況が続いていますが、今年度は、新型コロナウイルス後の行動制限のないゴールデンウィークやお盆ということもあり、国内線を中心に航空便の運航が回復しつつあると聞いています。また、10月11日から水際

対策が大幅に緩和され、入国者数の上限が撤廃されることも、個人の外国人旅行者の入国も解禁されたところ。これにより、羽田における国際線の便数もさらに回復していくと思われる。我が国のインバウンド需要の戻りが期待される反面、飛行ルート下の地域においては、現在よりも騒音が増えることが懸念されています。

羽田空港の現在の運航状況はどうか。

《総合企画部長より》
羽田空港では、新型コロナウイルス感染症の影響により、その運航便数は大幅に減少していましたが、現在は、ほぼコロナ前の水準まで回復しています。直近の10月の着陸回数とコロナ前の令和2年1月の比較では、羽田便の多くを占める国内線では、国内旅行需要の戻り等を背景に、同水準まで回復し、また国際線については、水際対策の段階的な緩和により5割程度、全体では9割程度の回復となつています。

令和2年3月に羽田空港の国際線の発着枠が約4万回増加していることも踏まえ、今後、更に運航便数が増加することも見込まれることとします。

【ほんま進】
県は、航空機騒音の軽減に向け、今後どのように対応していくのか。

《総合企画部長より》
首都圏において羽田空港の航空機騒音を一手に受け

てきた本県としては、県及び関係25市町で構成する「連絡協議会」などを通じて、これまでも国に対して騒音軽減を強く求めてきたところです。

令和2年3月に導入された、いわゆる都心上空ルートの活用は、本県への騒音の軽減に資することから、県としても、その運用状況を定期的に確認するとともに、着実な運用を引き続き働きかけてまいります。

加えて、管制技術の進展や航空機の技術革新なども踏まえて、更なる騒音軽減策の実現に積極的に取り組むよう、今後も国に求めてまいります。

【ほんま進《要望》】
羽田空港では、機能強化により国際線の発着枠が増えたことも考え、水際対策の大幅な緩和によって、今後さらに増便が進み、航空機騒音の増加が懸念されます。

都心上空ルートが導入されたとはいえ、その運用時間は一部時間帯に限られており、依然として、本県上空に羽田空港の飛行ルートの多くが設定されている状況に変わりはありません。国に対しては、都心上空ルートをしっかりと運用することはもちろん、あらゆる角度から更なる騒音軽減策を検討し、早期実現に向けて取り組むよう、引き続き、強く求めていただくことを要望します。